

Pitchari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第196号

ななえ古写真物語 VOL.196

鞍掛岩は何処にある

地図により変わる場所

昭和3年ころ

大沼地区



ピチャリ第194号で、相原周防守の伝説とその真偽について記したが、その中で「鞍掛岩」の由来にふれた。概説すると、アイヌの蜂起にあった相原周防守季胤と2人の姫が、大沼湖畔まで追い詰められ、姫たちは湖水に身を投じ、季胤は愛馬の鞍を岩にのせ入水する。この岩が鞍掛岩と呼ばれるようになった。というものだ。

最近、当館で所蔵している古い絵葉書を整理していたら、鞍掛岩が写っているものがあつた（上写真参照）。頂部が白っぽくなった岩が湖上に突き出ている様子である。冷静に分析すれば、鞍を置くには少々大きめといった印象で、何よりも愛馬から降りて鞍を置くには、湖の中にはいかなければならず、仮に伝説の時代は、現在の湖面と異なり、陸地だったとしても、地形はさほど変わらないので、岩の高さが相当あつただろうと推測され、伝説は後付けで創作されたように思う。

この鞍掛岩について、「湖の真ん中と、湖岸近くと二つの説があるが、どちらが正しいのか？」という問合せを受けた。ネットで地図を調べてみたところ、大沼湖の中央部にあることになっており、北緯42度0分0.4秒、東経140度41分47.1秒の位置をさしていた。鞍をかけるため湖に入っていく相原周防守を想像すると、大変さに同情してしまう場所だ。

しかし、上の写真を見る限り、そのような場所にはない。なぜなら背後に写る陸地が近いこと、さらに陸地を覆う木々が湖に映り込み、鞍掛岩にまで及んでいるので、湖の中央にあるとは考え難いからだ。当館が根拠としているのは、平成11年に発行された「NANAЕ大沼【大沼観光事典】」記載のもので、山谷湾と呼ばれる入り組んだ所に浮かぶ岩（小島）である。だが現在、ネット上のマップや七飯町発行の「七飯町図」には、湖の中央部にあることになっている。

一体なぜそのような現象が起こったのか？当館で所蔵する地図の中で、鞍掛岩と記された最も古いものは、大正4年に測量を実施し、昭和になってから、内務省地理調査所で再発行した五万分の一地形図「大沼公園」なのだが、それを見てみると、縦書きで「鞍掛岩」という表示がある。湖の中央部と実際の岩の位置近くにわたって書かれていることから、あるいは表示の下側にある鞍掛岩を、上に位置する小島と誤認し、後世の表記では、湖の中央部にあることになったのかもしれない。少しお粗末な話であるが、可能性は高いと思っている。

ともかく、現在、ネットなどで流布されている鞍掛岩の位置は誤りであると、この誌面を借りて訴えているのだが、流布している位置が、定説になってしまうような気がする。

5月の予定

6日 夜の博物館

「近代建築の見かた、楽しみかた」と題し、函館西部地区の特徴的な建物を、NPOはこだて街なかプロジェクト理事長の山内氏を講師にお迎えし、お話して頂きました。函館の建物は、明治期の開拓と深く関係があること、西洋建築の知識がないまま、見よう見まねで建てた「疑洋風建築」と呼ばれる建物の詳しい解説は、とても興味深いものでした。また函館の大火の歴史が与えた建物の細かな変遷は、今後街あるきをする上で新たな視点をもつ楽しみになりました。



17日 ジュニア探検クラブ

閉講式を行いました。全12回のプログラムは、みんなのどんな思い出になったでしょうか。第1回目から写真で振り返り、楽しかったこと、つらかったこと、気づいたことなど自由に発言してもらいました。楽しかったプログラムは、「石器づくり」が多く、これは意外でした。ひとりひとりの感想では、「なんとなく見ていたものに知識が加わり、想像がつくようになった。」「学んできてよかった」など嬉しい言葉ももらいました。



企画展「これは〇〇？」から。

先月27日から開催しております、企画展は順調に来館者数を伸ばし、有難い限りです。ちょっと不親切な展示は、見て、触れて、想像をしてもらうことを第一に考えています。頂いたアンケートには、賛否両論の意見があります。でもそれで良いと考えています。すぐに答えを知ること大切ですが、想像をし、答えを導くのも悪くはないと思います。ちなみに資料名だけのパネルも用意してありますので、答え合わせのヒントになるかも知れません。



1	水	企画展「これは、〇〇??」
2	木	
3	金	憲法記念日
4	土	みどりの日
5	日	こどもの日
6	月	振替休日
7	火	休館日
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	休館日
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	休館日
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	ジュニア探検クラブ
26	日	企画展最終日
27	月	休館日
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

※休館日：7日、13日、20日、27日

方位磁石

最近寄贈されたこの資料。木製のケースにきれいに収まっています。東西南北の周りには、十二支が配置されています。



編集後記 ~tawagoto~

桜の開花は人々の心を浮き立たせる。日本各地での開花の知らせは、連日のようにニュースの話題になる。異例の暖かさで、一気に開いていく桜を、今年は当地でも早く見れそうだ。桜の種類は実に種類が多く、覚えるのも大変。野生種と栽培品種を合わせると、300種を超えるという。明らかに色が違う「ギョイコウ」や「ウコン」、桜餅の葉に使用される「オオシマザクラ」など、わかりやすいものから覚えるのがおすすめだ。

ピチャリ ~ピチャリ~

第196号

令和6年4月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp